

「祈らなければ、できない」

(ルカによる福音書 9:18-24)

「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」と、主イエスは言われます。「日々、自分の十字架を背負う」とは、日々主イエスに従い、神を愛し、人を愛して生きることです。しかし、日々主イエスに従って歩もうと決意したとしても、実際はとても難しいことです。主イエスですら、神のみ心に従って歩むことは恐ろしいことでした。主イエスのご受難の前、オリーブ山で「この杯を取り除いて欲しい」と祈り、「わたしの願いではなく、御心のままに」と自分の思いを神さまの思いへと委ねます。主イエスですら、恐れの中で祈ったのです。

「あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」という、主イエスからの問いかけに、ペトロは「神からのメシア」だと答えました。しかし、ペトロが真に主イエスのことが分かったのはずっと後、聖霊降臨によってです。ご受難の後、ペトロや弟子たちは、部屋の中で主イエスを裏切った自分の弱さ、罪深さ、悔しさ、怖さ、そういう何もかもを吹き飛ばしてもらいたくて、ただひたすら願い、祈っていました。そして必死に祈るペトロや弟子たちに聖霊は吹き荒れました。弟子たちは聖霊によって自分の後悔や弱さを吹き飛ばしていただき、罪の赦しに与り、新しい命を生きる者へと変えられたのです。

これが、「日々、主イエスに従う」ということだと思います。主イエスに従って歩もうとする。しかし、弟子たちが裏切ったように、それができない自分の弱さを知らされ、躓き、後悔し、どうか赦してください、新しくしてくださいと必死で祈る。その中で心の底からこう感じるのです。

「真に、主イエスは今わたしの横にいて、導き続けてくださっている。赦してくださっている。」ここに、主イエスとの真の出会いがあります。